

行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標2	安心して暮らせる支えあいのまち
基本施策2	安心を支える健康づくりと保健・医療の充実
施策11	保健・医療
基本方針	だれもが生涯にわたり健康に暮らせるよう、健康づくりへの自主的な取組みを促します。また、必要なときには質の高い医療が受けられるよう、地域の医療提供体制の充実を支援します。

2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名	現状	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1 「はむら健康の日」「健康フェア」の参加人数	4,047 人 (平成22年度)	6,113 人	5,824 人	5,704 人	4,430 人	4,514 人	5,300 人
指標2 がん検診の受診率(対象人口率調査に基づく受診率)	15.00% (平成22年度)	16.70%	17.70%	16.50%	18.48%	17.44%	17.20%
指標3 3～4か月児健診の受診率	95.70% (平成22年度)	96.40%	96.30%	89.50%	96.80%	95.60%	98%
指標4 平日夜間急患センターの利用者数	1,012 人 (平成22年度)	768 人	732 人	681 人	685 人	575 人	1,300 人

3 施策を構成する平成28年度事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成28年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る重点事務事業
		決算/円	予算執行率	進捗状況	妥当性(必要性)	効率性(手法)	有効性(成果)	方向性	
1	健康はむら21の推進	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	
2	妊婦健康診査及び新生児訪問指導の充実	31,665,887	89.6%	計画どおり完了	○	○	○	A	
3	はむら健康の日・健康フェアの実施	1,368,040	94.7%	計画どおり完了	○	○	△	B	*
4	保健と運動を組み合わせた健康づくり講座の実施	50,000	80.6%	計画どおり完了	○	○	○	A	
5	30歳・35歳健康診査の実施	1,354,182	99.7%	計画どおり完了	○	○	△	B	
6	ヘルスアップ健診の実施	28,656,935	100.0%	計画どおり完了	○	○	○	A	
7	乳幼児健診の実施	12,635,644	95.9%	計画どおり完了	○	○	△	B	*
8	予防接種の実施	110,878,639	74.0%	計画どおり完了	○	○	○	A	
9	がん検診の拡充	43,076,043	99.1%	計画どおり完了	○	○	△	B	*
10	特定不妊治療費の助成	1,850,000	74.0%	計画どおり完了	○	○	○	A	
11	災害時医療救護体制の構築	340,200	97.5%	計画どおり完了	○	○	○	A	

4 施策評価

①施策の評価

市の健康増進計画である「健康はむら21」に基づき、乳幼児期から高齢期までのライフステージを通じた健康づくりを推進してきた。

具体的には、生活習慣病をはじめとする疾病を予防し、市民一人ひとりが健康で暮らしていくために乳幼児期から高齢期まで幅広く健診(検診)等を実施した。その結果、がんの早期発見、治療につなげるためのがん検診受診率は目標値17.20%を達成しているが、より一層受診率を向上する必要がある。

また、健康づくり推進員や関係団体と協働して、「はむら健康の日」や「健康フェア」などを実施し、市民の健康づくりに対する意識の高揚を図ったが、はむら健康の日及び健康フェアの参加人数は、平成24～26年度は目標値 5,300人を上回ったが、27～28年度は天候の影響もあり約4,500人程度に減少した。

生活習慣病を予防し健康増進を図ることを目的とした30歳・35歳健康診査を実施しているが、受診率が低いことから一層の普及啓発を図る必要がある。

3～4か月児健診の受診率は、ほぼ横ばいで推移しており目標値を達成していない。平成28年度からは、妊婦健康診査及び新生児訪問指導を充実し、妊娠中から産後における健康診査や訪問指導による母体の心身の健康管理や子どもの健やかな発育を支援することができた。

平日夜間急患センターの利用者数は、減少傾向にあり平成28年度は575人であった。これは、福生病院で夜間小児科を週2日行っていることや、青梅市で平日夜間の診療を行っているなど、近隣での医療体制の変化が影響していると考えられる。

②今後の方向性(改善への取組み等)

今後も乳幼児期から高齢期まで幅広く健診(検診)等を実施し、さまざまな手法を取り入れ、受診率の向上に努める。また、健康づくり推進員や関係団体と協働して引き続き、「はむら健康の日」、「健康フェア」を実施する。これらの取組みを通して、健康づくりの必要性について広く普及啓発するとともに、市民一人ひとりの自主的な健康づくりを支援していく。

また、妊娠・出産期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制を構築し、母体の健康管理や子どもの健やかな成長を支援していく。

地域の医療提供体制については、公立福生病院への財政的支援や運営面での改善要望を行い、広域的な医療連携の推進と医療サービスの質の向上を図っていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	福祉健康部			健康課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
1	健康はむら21の推進	平成 26 年	期間設定10年	自治事務	業務委託(一部)	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標 2	安心して暮らせる支えあいのまち	施策区分	11	保健・医療	事業番号	1

2.事業の概要

事業内容	健康増進法に基づき、市民の健康づくりを推進するため、第二次健康増進計画として健康はむら21第二次計画を推進します。
根拠法令	健康増進法
条例	羽村市健康増進計画「健康はむら21」審議会
要綱等	

3.成果指標

成果目標	平成26年度に第二次計画を策定し、平成27年度以降は、計画を積極的に推進する。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	健康はむら21第二次計画の推進(平成27年度~36年度)	同左	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	200 H	1人	100 H	1人	100 H	1人	100 H
主事・主任職	2人	200 H	2人	100 H	2人	100 H	2人	100 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	0	0	0
人件費(係長職)	1,008	498	498	498
人件費(主任・主事職)	1,440	680	680	680
総事業費(合計)	2,448	1,178	1,178	1,178
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	2,448	1,178	1,178	1,178
財源内訳(合計)	2,448	1,178	1,178	1,178

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 冊 における1冊 のコストは 円
 ※ 対象者: 市民及び関係機関

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

「はむら健康の日」、「健康フェア」等のイベントや町内会・自治会選出等からなる健康づくり推進員(2年1期)に継続して周知を図った。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0		0		-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
「はむら健康の日」や「健康フェア」などで計画内容についてPRを行った。	健康づくり推進員をはじめ、市民へ継続して周知することにより健康づくりに対する意識の高揚を図ることができた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	低	
←	→	

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 平成27年度から計画の推進を実施しており、引き続き「はむら健康の日」、「健康フェア」、「地域健康教育」などにより普及啓発を図り、市民の健康づくりを推進していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目

事業名		作成部署	福祉健康部			健康課
開始年度		実施期間	事業種別	運営手法	進行管理	
2	妊婦健康診査及び新生児訪問指導の充実	平成 28 年	継続	自治事務	業務委託(一部)	
01	妊婦健康診査の充実	平成 28 年	継続	自治事務	業務委託(全部)	
02	特定不妊治療費の助成	年				
03	妊産婦訪問指導の充実	平成 28 年	継続	自治事務	直営	
04	未熟児訪問指導の充実	平成 28 年	継続	自治事務	直営	
05	産婦健康診査の充実	平成 28 年	継続	自治事務	直営	
関連課						
基本目標 2	安心して暮らせる支えあいのまち	施策区分	11	保健・医療	事業番号	10

2.事業の概要

事業内容	妊娠中から産後における健康診査や訪問指導を行い、母体の心身の健康管理や子どもの健やかな発育を支援します。
根拠法令	母子保健法
条例	なし
要綱等	羽村市産婦健康診査実施要綱、羽村市妊産婦訪問指導実施要綱、羽村市新生児訪問指導実施要綱

3.成果指標

成果目標	妊婦健康診査を行うことにより、妊婦及び胎児の健康状態を把握し、母体の健康管理や異常の早期発見・早期対応につなげる。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	妊婦健康診査の実施 延受診者2,279人 平成28年1月現在	妊婦健康診査の検査項目の追加 HIV検査・子宮頸がん検診	妊婦健康診査の実施	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	4 H	1人	4 H	1人	4 H	1人	4 H
主事・主任職	2人	96 H	2人	80 H	2人	100 H	2人	100 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	32,772	40,601	40,601	40,601
人件費(係長職)	21	20	20	20
人件費(主任・主事職)	691	544	680	680
総事業費(合計)	33,484	41,165	41,301	41,301
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	7,000	9,000	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	26,484	32,165	41,301	41,301
財源内訳(合計)	33,484	41,165	41,301	41,301

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 人 人のコストは 円

※ 対象者：妊娠届出者数(H28見込)×14回分

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

妊婦健康診査においては、HIV検査、子宮頸がん検診が追加されたことから、受診票等交付の際に十分な説明を行った。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	40,601,000	▲ 5,253,000	35,348,000	31,665,887	89.6%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
妊娠中から産後における健康診査や出産後の訪問指導を実施し、母親の健康管理や乳児の発育の支援をした。	引き続き、妊娠中から産後における健康診査や出産後の訪問指導を実施し、母親の健康管理や乳児の発育の支援をした。 また、妊婦健康診査において、検診項目が追加されたことから、対象者への周知に努めた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

⇒

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

8.評価

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性
↑	↑	↑	↑	A
↓	↓	↓	↓	
低	低	低	低	

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
妊娠中の方が定期的に健診を受け、母体や胎児の健康が守られながら安心して出産が迎えられるよう、引き続き妊婦健康診査受診票を交付していく。 また、平成29年度からは子育て相談課と連携し、母子健康手帳交付の際に保健師等の専門職による面接を行い、妊娠期から出産・育児期における切れ目ない支援の強化を図っていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	福祉健康部			健康課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
3	はむら健康の日・健康フェアの実施	平成 18 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	2	安心して暮らせる支えあいのまち	施策区分	11	保健・医療	事業番号 2

2.事業の概要

事業内容	健康づくり推進員等との連携により、健康づくりの意識啓発を図るイベントを実施します。
根拠法令	なし
条例	なし
要綱等	羽村市健康増進計画 健康はむら21(第二次)

3.成果指標

成果目標	市民の健康づくり意識啓発を図るため、「はむら健康の日」と「健康フェア」の参加人数を平成28年度までに5,300人にする。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	はむら健康の日 1回2,904人	同左 1回3,150人	同左 1回3,200人	同左 1回3,200人
	健康フェア 1回1,526人	同左 1回3,100人	同左 1回3,200人	同左 1回3,200人

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2人	30H	2人	30H	2人	30H	2人	30H
主事・主任職	2人	400H	2人	400H	2人	400H	2人	400H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	1,475	1,445	1,445	1,445
人件費(係長職)	303	299	299	299
人件費(主任・主事職)	2,879	2,720	2,720	2,720
総事業費(合計)	4,657	4,464	4,464	4,464
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	821	827	827	827
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	3,836	3,637	3,637	3,637
財源内訳(合計)	4,657	4,464	4,464	4,464

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	79	円		
イ 対象者	56,281	人における1人あたりのコストは、	79	円		
ウ 成果物	参加者	の 出来高	4514	人 における1人 のコストは	989	円

※ 対象者: 市民

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

健康づくり推進員と会議を重ね、両事業とも計画どおり実施した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	1,445,000	0	1,445,000	1,368,040	94.7%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
来場者数については、「はむら健康の日」は、延べ2,904人(前年比△161)、「健康フェア」は、天候が影響し、参加者は少なかったが、延べ1,526人(前年比△1,113人)であった。	「はむら健康の日」延べ2,630人(前年比△274人)、「健康フェア」延べ1,884人(前年比358人)であった。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
はむら健康の日参加人数	3,150人	2,630人
健康フェア参加人数	3,100人	1,884人

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

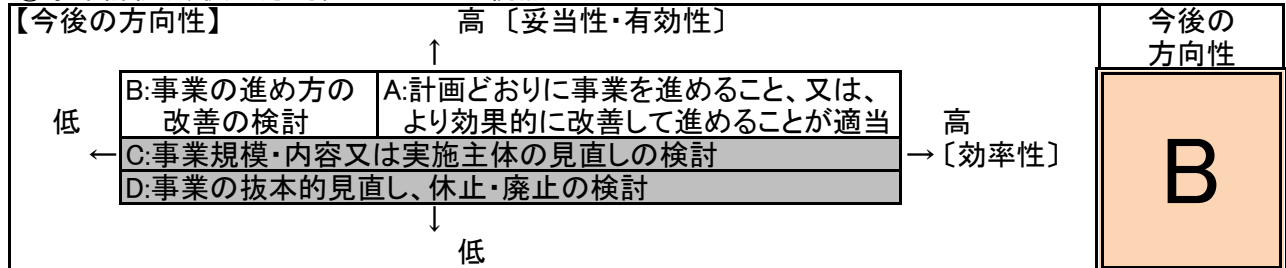
○・・・適切なもの

△・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点)

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	△

②事業評価(今後の方向性についての視点)



Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 イベントを通して、楽しく学ぶことにより市民の健康づくりの動機付けになっていると思われる。
 また、来場者は、子育て世代を終えた高齢者が中心であるため、若い世代の参加を増やすことが課題である。
 今後も健康づくり推進員をはじめ、市民と協同して実施していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	福祉健康部			健康課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
4	保健と運動を組み合わせた健康づくり講座の実施	平成 23 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課	スポーツ推進課					
基本目標	2	安心して暮らせる支えあいのまち	施策区分	11	保健・医療	事業番号 4

2.事業の概要

事業内容	関係団体と連携して、保健・栄養などの学習と運動を組み合わせた健康づくりのための講座等を実施します。					
根拠法令	なし					
条例	なし					
要綱等	なし					

3.成果指標

成果目標	こころの健康も含め、市民への意識啓発や理解を広め、健康保持、増進につなげる。					
------	--	--	--	--	--	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	健康づくり教室 1回20人	同左 1回20人	同左 1回20人	同左 1回20人
	健康・スポーツフォーラム 1回150人	同左 1回150人	同左 1回150人	同左 1回150人

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	80 H	1人	24 H	1人	16 H	1人	16 H
主事・主任職	1人	10 H	3人	108 H	3人	108 H	3人	108 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	88	62	62	62
人件費(係長職)	404	120	80	80
人件費(主任・主事職)	36	1,102	1,102	1,102
総事業費(合計)	528	1,284	1,244	1,244
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	12	12	12	12
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	516	1,272	1,232	1,232
財源内訳(合計)	528	1,284	1,244	1,244

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	23	円
イ 対象者	56281	人における1人あたりのコストは、	23	円
ウ 成果物		の 出来高		人
※ 対象者: 市民				人のコストは

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

運動を組み合わせた健康づくり講座(教室)をスポーツ推進課と連携して実施した。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	62,000	0	62,000	50,000	80.6%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
参加者 96人(健康づくり教室17人、フォーラム79人) 講座等を実施し、市民の意識啓発や理解を広め、健康保持、増進につなげることができた。	昨年度の「かんたん教室」に変わり、「運動初心者向け美Body教室」を実施し、全6回のうち、3回で食習慣・生活習慣などについて保健センター専門職による講義を行った。 また、スポーツ推進課と協同で今年度も「健康・スポーツフォーラム」を実施した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
健康づくり教室開催数	1回	1回
健康・スポーツフォーラム開催数	1回	1回

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性						
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		高 [効率性]	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当							
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討								
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討								
低	低							

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
運動は、生活習慣病を予防するうえでも重要であることから、今後もスポーツ推進課や健康づくり推進員等と連携して講座や講演等を実施していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	福祉健康部			健康課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
5	30歳・35歳健康診査の実施	平成 26 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	2	安心して暮らせる支えあいのまち	施策区分	11	保健・医療	事業番号 9

2.事業の概要

事業内容	30歳と35歳の市民の方で、健康診査を受診する機会がない方を対象に、生活習慣病に着目した節目の健康診査を実施します。
根拠法令	健康増進法
条例	
要綱等	羽村市30歳・35歳健康診査実施要綱

3.成果指標

成果目標	将来、生活習慣病にならないため、早期の健康診査を実施し、受診者の増加を図る。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	30歳・35歳健康診査の実施 受診者数 200人 平成28年1月現在 受診者130人	同左 150人	同左 150人	同左 150人

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2人	24 H	2人	24 H	2人	24 H	2人	24 H
主事・主任職	2人	240 H	2人	240 H	2人	240 H	2人	240 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	1,856	1,471	1,471	1,471
人件費(係長職)	242	239	239	239
人件費(主任・主事職)	1,728	1,632	1,632	1,632
総事業費(合計)	3,826	3,342	3,342	3,342
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	1,197	733	733	733
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	2,629	2,609	2,609	2,609
財源内訳(合計)	3,826	3,342	3,342	3,342

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	59	円
イ 対象者	1224	人における1人あたりのコストは、	2,730	円
ウ 成果物		の 出来高		人
		の コストは		円

※ 対象者: 30歳、35歳の男女の市民

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

平成28年度中に30歳、35歳になる市民を対象に計画どおり(6月～10月)実施した。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	1,471,000	▲ 113,000	1,358,000	1,354,182	99.7%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
昨年度から実施した事業であり、今年度は7月に受診勧奨(はがき)を実施したこともあり、受診者が134人となった。	平成28年度は、個別健診以外に保健センターにおいて日曜日(10/23)に集団健診も実施したが、受診者数は119人であり、昨年度より15人減となった。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
30歳・35歳健康診査受診者数	150人	⇒ 119人

Check【評価】

8.評価

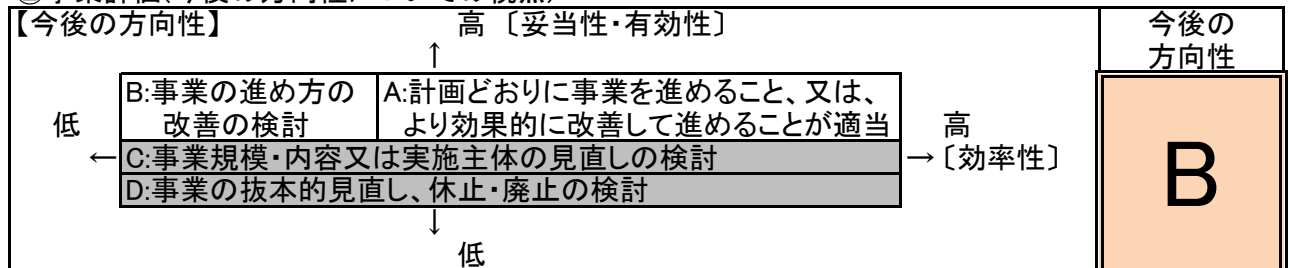
◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	△

②事業評価(今後の方向性についての視点)



Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 若い世代の市民の健康意識を向上させ、特定健康診査(40歳以上)に繋げるためにも今後も実施していく。
 また、受診者数の増を目指し、引き続き受診勧奨や集団健診(日曜日)を実施していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	福祉健康部		健康課		
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理	
6	ヘルスアップ健診の実施	平成 20 年	継続	自治事務	業務委託(一部)		
	01	年					
	02	年					
	03	年					
	04	年					
	05	年					
関連課							
基本目標	2	安心して暮らせる支えあいのまち	施策区分	11	保健・医療	事業番号	3

2.事業の概要

事業内容	40歳以上を対象に、特定健康診査とあわせてフォローアップ健診を実施します。				
根拠法令	健康増進法				
条例	なし				
要綱等	羽村市ヘルスアップ健康診査事業実施要綱				

3.成果指標

成果目標	特定健康診査を補完するための健診を実施することにより、市民の健康管理を更に支援していく。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	ヘルスアップ健診の実施 受診者数 8,977人 うち集団52人 平成27年12月現在	同左 受診者数 10,767人	同左 受診者数 11,090人	同左 受診者数 11,090人

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	80 H	1人	80 H	1人	80 H	1人	80 H
主事・主任職	2人	200 H	2人	200 H	2人	200 H	2人	200 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	28,527	32,604	32,604	32,604
人件費(係長職)	404	398	398	398
人件費(主任・主事職)	1,440	1,360	1,360	1,360
総事業費(合計)	30,371	34,362	34,362	34,362
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	24,000	28,000	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	6,371	6,362	34,362	34,362
財源内訳(合計)	30,371	34,362	34,362	34,362

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	611	円
イ 対象者	33851	人における1人あたりのコストは、	1,015	円
ウ 成果物		の 出来高		人
※ 対象者: 40歳以上の男女		人のコストは		円

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

40歳以上を対象に特定健康診査等と併せて実施した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	32,604,000	▲ 3,947,000	28,657,000	28,656,935	100.0%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
特定健康診査等のフォローアップ健診として、詳細検査(貧血、心電図、尿酸等)を加えたヘルスアップ健診を実施し、昨年度より受診者が217人増となった。	平成28年度の実績は、9,043人(うち集団83人)であり、前年度より66人増となった。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
ヘルスアップ健診受診者数	10,767人	9,043人

Check(評価)

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

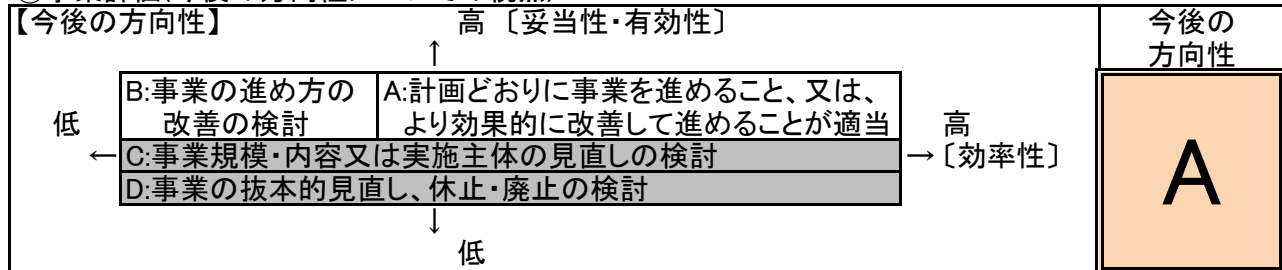
8.評価

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)



Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 詳細検査(貧血、心電図、尿酸等)を健診者全員に実施することにより、市民へのさらなる健康づくりに繋がるため今後も継続していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	福祉健康部			健康課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
7	乳幼児健診の実施	昭和 62 年	継続	自治事務	直営	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	2	安心して暮らせる支えあいのまち	施策区分	11	保健・医療	事業番号 5

2.事業の概要

事業内容	3か月から3歳までの乳幼児を対象に定期健診を実施し、必要に応じて経過観察を行います。					
根拠法令	母子保健法第12、13条					
条例	なし					
要綱等	羽村市乳幼児健康診査実施要綱、羽村市乳幼児発達健康診査実施要綱、羽村市1歳6か月健康診査実施要綱、羽村市3歳児健康診査実施要綱					

3.成果指標

成果目標	3～4カ月児健診の受診率を平成28年度までに98%とする。
------	-------------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	乳幼児健診 3～4か月健診の受診率 対象309人 受診298人 受診率96.4% 平成27年12月現在	同左 98.0%	同左 98.0%	同左 98.0%

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	144 H	1人	164 H	1人	144 H	1人	144 H
主事・主任職	9人	1,392 H	9人	1,432 H	9人	1,560 H	9人	1,560 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	13,336	14,270	14,270	14,270
人件費(係長職)	726	816	717	717
人件費(主任・主事職)	45,076	43,807	47,722	47,722
総事業費(合計)	59,138	58,893	62,709	62,709
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	2,415	2,323	2,323	2,323
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	56,723	56,570	60,386	60,386
財源内訳(合計)	59,138	58,893	62,709	62,709

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	1,046	円
イ 対象者	440	人における1人あたりのコストは、	133,848	円
ウ 成果物		の 出来高		人
※ 対象者: 生後3～4か月の乳幼児		人のコストは		円

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

3~4か月児、1歳6か月児、3歳児の健診をそれぞれ毎月計画どおり実施した。また、各健診時に
 いて、気になる児のために経過観察健診も毎月実施した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	14,270,000	▲ 1,089,000	13,181,000	12,635,644	95.9%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
3~4か月児健診は、対象者396人に対し受診者361人であり、受診率は96.8%であった。	3~4か月児健診は、対象者427人に対し受診者408人・受診率95.6%、1歳6か月児健診は、対象者386人に対し受診者372人・受診率96.4%、3歳児健診は、対象者447人に対し受診者421人・受診率は94.2%であった。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
3~4か月健診の受診率	98.0%	95.6%

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	△

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性				
<table border="1"> <tr> <td>低</td> <td> B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討 </td> <td> A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当 </td> <td>高 [効率性]</td> </tr> </table>	低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高 [効率性]		<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">B</div>
低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高 [効率性]			

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
乳幼児の発育や精神の発達に関して適切な時期に必要な健診を実施することにより、乳幼児の健全な発達を図るため、今後も実施が不可欠である。 また、未受診者を対象に再呼出通知を送信することにより、受診率向上に努めていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	福祉健康部		健康課		
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理	
8	予防接種の実施	昭和 不 明 年	継続	自治事務	業務委託(一部)		
	01	年					
	02	年					
	03	年					
	04	年					
	05	年					
関連課							
基本目標	2	安心して暮らせる支えあいのまち	施策区分	11	保健・医療	事業番号	6

2.事業の概要

事業内容	ポリオ、BCGなどの各種疾病を予防するための接種を行います。
根拠法令	予防接種法
条例	羽村市予防接種健康被害調査委員会条例
要綱等	羽村市先天性風しん症候群対策風しん等ワクチン予防接種実施要綱

3.成果指標

成果目標	予防接種を実施することにより、感染性の恐れのある疾病の発生及びまん延を抑制させる。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	予防接種 定期(A類疾病)13種 定期(B類疾病)2種 任意1種	同左 定期(A類疾病)13種 定期(B類疾病)2種 任意1種	同左 定期(A類疾病)13種 定期(B類疾病)2種 任意1種	同左 定期(A類疾病)13種 定期(B類疾病)2種 任意1種

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	48H	1人	48H	1人	48H	1人	48H
主事・主任職	9人	1,184H	9人	1,184H	9人	1,184H	9人	1,184H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	139,995	139,902	139,902	139,902
人件費(係長職)	242	239	239	239
人件費(主任・主事職)	38,341	36,220	36,220	36,220
総事業費(合計)	178,578	176,361	176,361	176,361
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	11,916	11,658	11,658	11,658
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	23,125	25,000	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	143,537	139,703	164,703	164,703
財源内訳(合計)	178,578	176,361	176,361	176,361

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	3,134	円
イ 対象者	56,281	人における1人あたりのコストは、	3,134	円
ウ 成果物		の 出来高		件
※ 対象者: 市民				件 のコストは

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

BCGは毎月、保健センターにおいて集団接種で実施し、その他の予防接種は市内医療機関(一部市外医療機関含む)において個別接種を実施した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	139,902,000	9,913,000	149,815,000	110,878,639	74.0%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
延べ接種者14,308人(前年度16,030人) 予防接種を実施することにより、感染症の恐れのある疾病の発生及びまん延を抑制することができた。	平成28年10月より、乳幼児の定期予防接種が1種(B型肝炎)追加となった。また、三種混合ワクチンは、四種混合ワクチンの開発により製造中止となったため、定期予防接種から除かれた。 昨年度同様に接種、接種勧奨を実施した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

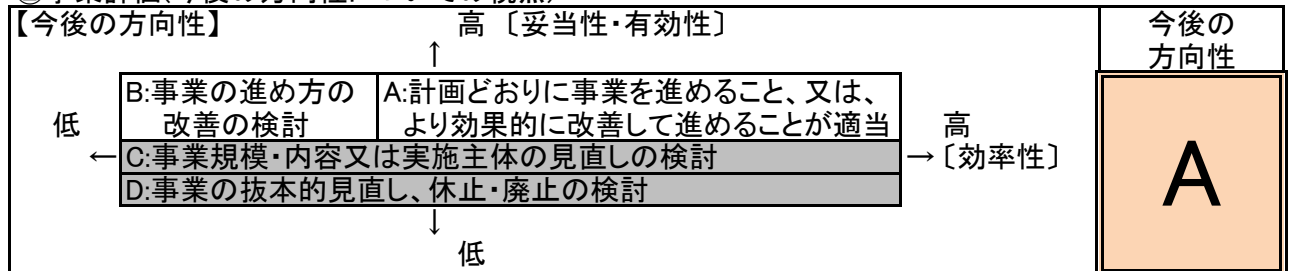
◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、 事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)



Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 流行の恐れのある疾病の発生及びまん延予防や市民の健康保持のため、医師会と連携し今後も継続していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	福祉健康部			健康課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
9	がん検診の拡充	不明	年継続	自治事務	業務委託(一部)	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課						
基本目標	2	安心して暮らせる支えあいのまち	施策区分	11	保健・医療	事業番号 8

2.事業の概要

事業内容	がんを早期に発見するため、実施体制、対象者、受診指導などの内容を見直し、がん検診の受診率の向上に努めます。また、受診の機会を増やすため、休日に乳がんの集団検診を実施します。
根拠法令	健康増進法第19条の2
条例	なし
要綱等	羽村市乳がん検診実施要綱

3.成果指標

成果目標	がんを早期に発見し、治療につなげるため、受診率を平成28年度までに18%まで向上させる。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	各種がん検診の実施 乳がんの集団検診の実施 受診率:16.5%(全体平均) 平成27年12月現在	同左 受診率:18.0%(全体平均)	同左 受診率:18.1%(全体平均)	同左 受診率:18.2%(全体平均)

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2人	100H	2人	100H	2人	100H	2人	100H
主事・主任職	4人	3,000H	4人	3,000H	4人	3,000H	4人	3,000H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	46,014	43,479	43,889	44,303
人件費(係長職)	1,008	995	995	995
人件費(主任・主事職)	43,176	40,788	40,788	40,788
総事業費(合計)	90,198	85,262	85,672	86,086
国庫支出金	3,810	364	364	364
都支出金	183	80	80	80
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	8,000	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	86,205	76,818	85,228	85,642
財源内訳(合計)	90,198	85,262	85,672	86,086

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	1,515	円
イ 対象者	39,333	人における1人あたりのコストは、	2,168	円
ウ 成果物		の 出来高		人
		の コストは		円

※ 対象者: 40歳以上の男女及び子宮頸がん20歳以上の女性

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

胃がん、呼吸器、大腸がん、子宮頸がん、乳がんについて、それぞれ計画どおり実施した。
 また、乳がん検診については、年2回・日曜日に集団健診を実施した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	43,479,000	0	43,479,000	43,076,043	99.1%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
<受診率> 胃がん :8.0% 呼吸器 :7.7% 大腸がん :35.1% 子宮頸がん:22.2%(2年分の計) 乳がん :19.4%(2年分の計)	<受診率> 胃がん :7.6% 呼吸器 :7.5% 大腸がん :33.8% 子宮頸がん:20.7%(2年分の計) 乳がん :17.6%(2年分の計)

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
がん検診全体の受診率	18.0%	⇒ 17.44%

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

8.評価

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、 事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の 経費・労力で事務が執 行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れて いるか	△

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	今後の方向性
低	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	B
	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	
		高 [効率性]	
		低	

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長) 日本人の死因でもっとも多いのは悪性新生物(がん)であり、特に40歳以上は顕著である。がんを早期に発見し、治療に結びつけることが大切であるため、今後も実施していく。 また、受診率向上のためにクーポン券やはがきによる受診勧奨を充実していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	福祉健康部			健康課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
10	特定不妊治療費の助成	年				
01	妊婦健康診査の充実	年				
02	特定不妊治療費の助成	平成 21 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
03	妊産婦訪問指導の充実	年				
04	未熟児訪問指導の充実	年				
05	産婦健康診査の充実	年				
関連課						
基本目標 2	安心して暮らせる支えあいのまち	施策区分	11	保健・医療	事業番号	11

2.事業の概要

事業内容	不妊治療に係る経済的負担の軽減のため、特定不妊治療費の一部を助成します。
根拠法令	東京都特定不妊治療に係る医療費の助成に関する規則
条例	なし
要綱等	羽村市特定不妊治療費助成金交付要綱

3.成果指標

成果目標	治療費を助成することにより、経済的負担を軽減し、子どもを産み育てやすい環境づくりを推進する。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	特定不妊治療費助成の実施 平成27年12月現在 交付決定件数16件	同左	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	1人	120H	1人	120H	1人	120H	1人	120H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	2,500	2,500	2,500	2,500
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	432	408	408	408
総事業費(合計)	2,932	2,908	2,908	2,908
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	2,932	2,908	2,908	2,908
財源内訳(合計)	2,932	2,908	2,908	2,908

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	52	円
イ 対象者	4918	人における1人あたりのコストは、	591	円
ウ 成果物		の 出来高		件
		の コストは		円

※ 対象者: 30歳~43歳の女性

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

東京都の特定不妊治療の決定を受けている方で、1回の治療に東京都の助成決定額を超える費用がかかった方の申請に基づき、費用の一部(限度額:1回50,000円)を助成した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	2,500,000	0	2,500,000	1,850,000	74.0%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
平成27年度は21人・37件の助成を行った。	平成28年度は20人・37件の助成を行った。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	今後の方向性
低	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	A
	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	
		高 [効率性]	
		低	

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
高額な不妊治療を受ける方に対して、治療費の一部を助成することにより、経済的負担の軽減を図り、少子高齢化対策及び次世代育成の推進に繋がると考えるため、今後も継続していく必要がある。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	福祉健康部			健康課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
11	災害時医療救護体制の構築	平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課	危機管理課・防災安全課					
基本目標	2	安心して暮らせる支えあいのまち	施策区分	11	保健・医療	事業番号 12

2.事業の概要

事業内容	災害時の医療救護体制を構築するため、関係機関との連携会議等を開催し、医療救護活動が円滑に行えるよう体制の整備を図ります。					
根拠法令	災害対策基本法					
条例	なし					
要綱等	羽村市地域防災計画					

3.成果指標

成果目標	①緊急医療救護所②医療救護所の設置・運営③災害薬事コーディネーターの選出等④搬送体制について関係機関との協議を行い、体制の整備や必要な備品等の整備を行う。					
------	---	--	--	--	--	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	西多摩保健医療圏地域災害医療連携会議及び羽村市医師会との連携及び推進	同左	同左	同左
	災害薬事コーディネーター、薬品卸売業者との連携体制の検討	災害薬事コーディネーター、薬品卸売業者との連携体制の検討及び推進 パルーン投光機の設置	同左 災害時医薬品の整備検討 連絡体制、通信手段の検討及び推進	同左 災害時医薬品の整備

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2人	120H	2人	120H	2人	120H	2人	120H
主事・主任職	1人	12H	1人	12H	1人	12H	1人	12H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	349	570	0
人件費(係長職)	1,210	1,194	1,194	1,194
人件費(主任・主事職)	44	41	41	41
総事業費(合計)	1,254	1,584	1,805	1,235
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	1,254	1,584	1,805	1,235
財源内訳(合計)	1,254	1,584	1,805	1,235

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	28	円		
イ 対象者	56,281	人における1人あたりのコストは、	28	円		
ウ 成果物	備品等備蓄品	の出来高	3	品目 における1品目のコストは	528,000	円

※ 対象者: 市民

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

危機管理課、防災安全課と連携し、西多摩薬剤師会と協定を締結した。また、近隣の薬品会社5社と「災害時における医薬品等の調達業務に関する協定」も締結した。
 さらに、災害時の停電に備え、バルーン投光機1基、発電機(カセットガスで始動)1台、カセットガス18本を保健センターに配備した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	349,000	0	349,000	340,200	97.5%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
西多摩地区全体及び福生ブロック(福生、羽村、瑞穂)による連携会議や羽村市医師会と災害時の医療救護体制について打合せを重ねてきた。	保健センターにおいて、バルーン投光機等の備品配備のほか、羽村市医師会等との打合せにより、災害時の避難所医療救護所3か所の設置を決定した。(羽村一中、羽村二中、小作台小)

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	低	
←	→	
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
災害時に備え、地域防災計画を具体化するためにも医療救護体制を整えていくことは必要不可欠である。 今後も都や西多摩地区などの広域、福生ブロックでの連携会議等を重ね、医療救護体制を整備し、必要に応じて物品の購入なども検討していく。